

第12回アンケート結果（抜粋）

1. 一般講演1：「プロジェクトマネジメントのための情報管理手法について」

1. 知的成果物とコストを関連づけるとき、調査費がかかったなどは比較的明らかですが、明らかでないものも多くあり、関連づけが難しいこともありそうです。実際はどうでしょうか？

(持田)

あるプロジェクトがある場合、プロジェクトの成果物作成に直接かかった費用と共有可能な知的成果物作成にかかった費用を分けて測定して、評価すべきであると考えます。そこで、知的成果物と出来高（金額換算）を提示して見えるようにすることで実際のプロジェクトのパフォーマンスが解りますし、士気も上がると考えます。一般的に予算が与えられると仕事が簡単であっても予算を使い切る傾向があります。また、知的成果物作成費用を織り込んでいない場合、費用が足りないこととなります。問題になるのは予算が足りない場合で、予算が足りない理由として、元々計画予算が不適切である場合と調査や試験その他の知的成果物作成のための費用が織り込まれていないことがあります。

従いまして、ご質問の明らかでないものとはあるプロジェクトがある場合、プロジェクトの成果物作成に直接かかる費用と知的成果物作成にかかる費用の区切りであると考えます。実際のプロジェクトで問題なのは成果物作成にかかる費用と知的成果物作成にかかる費用の境界と努力代や効率化と呼ばれる予算カットの根拠が明らかになっていないことです。

2. プロジェクト管理の情報管理に「知識」を活用することで、企業内でどのような効果があるのか、次回の発表を楽しみにしております。（予算と実績の乖離が小さくなるのか、プロジェクトのコスト自体が削減されるのか、など。この点について、今回の発表でぜひ聞きたかったところでした。）

(持田)

あるプロジェクトがある場合、プロジェクトの中の業務には目標成果物の作成を行う生産活動と知的成果物の作成を行う知的生産活動の2つがあり、生産活動は慣れにより学習曲線が示すように作業の効率化が進んで行きます。一方、知的生産活動は手順や方式の組み合わせ、やり直しにより爆発的に必要時間が増加することがあり得ます。知的生産活動により得られるものが知識であると考えます。試行ややり直しのない作業において、知識を得ることは少ないと考えられます。従いまして、生産活動を試行ややり直しを必要としない単純作業に落とし込んでいくものが知識であると考えており、予算管理できるのは生産活動についてのみであると考えます。

3. プロジェクトマネジメントには、ELM は非常に有効な管理手法だと考えます。30分という短い時間ではなく、1時間くらいで説明を聞いてみたいと思いました。ありがとうございました。
4. プロジェクトマネジメントの新たなアプローチとして勉強になりました。
5. 対象となるプロジェクトの規模や開発の分野は、どのようなものを想定されていますか？
 - ・どの程度の規模で効果的なのか？
 - ・どの分野で有効か？一般的なソフト開発全体をカバーするのでしょうか？
 - ・既存のマネジメント手法との比較評価はできそうでしょうか？

(持田)

目標成果物の作成を行う生産活動と知的成果物の作成を行う知的生産活動の2つが存在するプロジェクトとしては期間が半年以上で工数が2000時間以上のものと考えていますので、対象となるプロジェクトもそのような規模であると考えています。

また、今回目指しているプロジェクトマネジメント手法は現在のスタッフやPMが楽しく仕事を行うための手法でありクリティカルパス法やCCPM法と比較するものではありません。元々、プロジェクトの成功、失敗はPMより上層が決めることで通常のプロジェクト管理は経営的な観点で行われていると思われます。本提案はPM以下のスタッフが自分らの成果を正しく表現して、正しく評価してもらえる環境の実現を目指しています。

実際、私も幾つかのプロジェクトのPMを務めましたが、上層部の管理のための報告に疲弊してしまい、知的生産活動や試行には大きく制限を受けたことがあります。ある本にも「プロジェクトは骨壺であり、一度入ると生きて出られない」とありましたが、多くの現場は実際のそのような形ではないかと思えます。

6. 経験値や暗黙知でプロジェクトの中～後工程で調整していたことを、数値化・ノウハウ化することは有効だと思います。
7. テキストデータ⇒XML、自動化をどうするのか、興味があります。